

群 教 セ	G02 - 02
	令 6.287集
	社会 - 小

小学校社会科において、 自ら学びに向かう児童の育成 ——自己決定学習を取り入れて——

特別研修員 大井 匡之

I 研究テーマ設定の理由

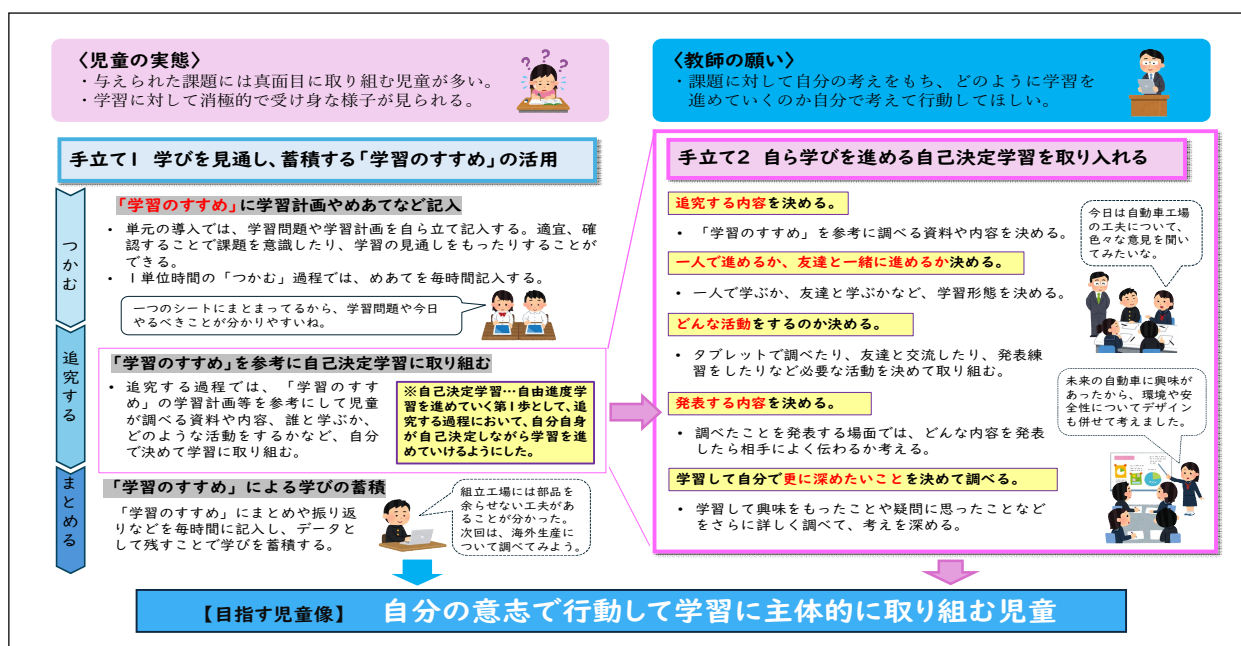
小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説社会編では、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を養う」ことを目標にしている。そのため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められる。また、近年では「GIGAスクール構想」によってICT端末を活用した授業実践も行われている。

研究協力校（以下、協力校）では、決められた活動に対して真面目に取り組む児童が多い。その一方、取組に対して受け身な様子や、発言などができる児童が固定化している様子が見られる。年度当初に社会科についてアンケートをとった際は、「社会科に興味がない・嫌い」とする児童が約40%いた。社会を好きな児童の割合が低いことから、社会的な事象や社会科の内容に対する興味・関心が薄いことが考えられる。また、これまでの社会科の授業を振り返ると、児童の興味・関心を高めるための工夫が足りなかったり、与えられた課題に取り組む活動が中心だったのではないかと感じられる。自分の考えに自信がもてない児童のため、ペアやグループなど小規模の学習形態の必要性も感じた。

そこで、「学習のすすめ」を使用して学習の見通しをもったり学びを蓄積したりしていく工夫や学習内容や学習形態、学び方などを自分で決める「自己決定学習」を取り入れることが、社会を好きになり主体的に授業に取り組んだり、自ら学びに向かう力を伸ばして学びを深めたりすることにつながると考え本研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 研究上の手立て

自ら学びに向かう児童を育成できるように、二つの手立ての実践を試みた。

手立て1 学びを見通し、蓄積する「学習のすすめ」の活用

手立て1は、タブレットで作成した「学習のすすめ」というワークシートをGoogle Classroomで配信し、学習問題や学習計画、毎時間のめあてや振り返りを入力していくことで、学びを見通し、蓄積していく工夫である。

つかむ過程では、単元の導入で立てた学習問題や学習計画を確認したり毎時間のめあてを自分で立てたりすることで、課題を意識したり見通しをもったりして学習に取り組むことができる。追究する過程では、「学習のすすめ」の学習計画を参考にして、手立て2で取り上げる「自己決定学習」に取り組む。まとめる過程では、学んだことや疑問に思ったことなどのまとめや振り返りをデータとして残すことで学びを蓄積し、次の学習に生かすことができると考える。

手立て2 自ら学びを進める自己決定学習

手立て2は、追究する過程で取り組む自己決定学習の導入である。学習形態や追究したり発表したりする内容、まとめ方や更に深めたいことなど多様な選択肢を設定し、児童が自己決定しながら学習をすすめるようにする。それにより、児童が主体的に授業に取り組んだり自ら学びに向かう力を向上させたりすることができるようにできると考える。

Ⅲ 実践例

1 単元名 「自動車をつくる工業」（第5学年・2学期）

2 本単元について

本単元「自動車をつくる工業」は、5年生の社会科の大単元「わたしたちの生活と工業生産」の中の小単元である。本単元では、日本の工業生産において重要な役割を果たす自動車生産について、製造の行程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、教科書、資料集、地図帳やタブレットなど各種の資料で調べたり、学区内にある自動車部品工場を見学したりして学んだことをまとめていく。それによって、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え表現することを通して、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し解決しようとする態度を養う単元である。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1) ①自動車の製造行程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を理解することができる。(知識及び技能) ②調べたことを図表や文などにまとめ、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解することができる。(知識及び技能) (2) ①自動車の製造の行程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見出し、自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現することができる。(思考力、判断力、表現力等) ②自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自動車生産に関わる人々の働きを考え、適切に表現することができる。(思考力、判断力、表現力等) (3) 自動車生産について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決することができる。(学びに向かう力、人間性等)
評価規準	(1) ①自動車の製造の行程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、自動車生産に関わる人々の工夫や努力を理解している。 ②調べたことを図表や文などにまとめ、自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、自動車生産を支えていることを理解している。 (2) ①自動車の製造の行程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見出し、自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ②自動車生産の仕事の工夫や努力と消費者の需要や社会の変化を関連付けて、自動車生産に関わる人々の働きを考え、適切に表現している。 (3) 自動車生産について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究

	し、解決しようとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・導入で示された学習課題から答えを予想して、学習問題を作成する。
	第2時	・ミニレッスンで自動車工業の大まかな特色を知り、自己決定学習による学習計画を立てる。
追究する	第3時 ～6時	・自己決定学習で自動車工場の工夫や努力などを調べる。 【学習内容の例】※計画により内容や順番は異なる ⇒組み立て工場の仕組みや工夫について 部品をつくる関連工場の働きや組み立て工場とのつながり 国内外への輸送・販売における工夫と海外生産について など ・中間発表で自動車工業の工夫や努力について調べたことを発表する。
	第7時	・自己決定学習で児童から集めた学習の疑問を調べたり、画像生成AIを活用して未来の自動車を考えたりして、学習のまとめを行う。
まとめる	第8時	・学習のまとめを発表して、学習を振り返る。

3 授業の実際

本時は全8時間計画の第7時に当たる。本時のつかむ過程で前時までの振り返りを全体で共有し、めあてを入力した。追究する過程では、自己決定学習により未来の自動車などについて調べたり発表の準備をしたりした。まとめる過程では、振り返りを入力し学びを蓄積していった。手立てについての具体的な内容は、次の通りである。

(1) 手立て1「学びを見通し、蓄積する『学習のすすめ』の活用」

「学習のすすめ」をGoogle Classroomで配信し、毎時間使用させた。単元の導入では、自動車身近な存在であることに触れながら日本車が世界一のシェアを誇る資料をGoogleスライドで提示しその理由を考えさせた。オクリンク+で意見を共有しながら「自動車工業に関わる人々の工夫や努力を探る」という学習問題を作った。その後、各自で立てた学習計画と共に「学習のすすめ」に入力させた。（図1）

つかむ過程では、学習計画を参考にすることでめあてを各自で立てることできた。追究する過程では、「学習のすすめ」の学習計画等を参考に自己決定学習に取り組んだ。まとめる過程では、自動車工業の工夫や努力など学んだことをまとめたり、学習する中で疑問に思ったことなどを振り返りに記入したりした。前時の振り返りを次時の導入で参考にしていたり、疑問に思ったことを調べていたりする様子も見られた。

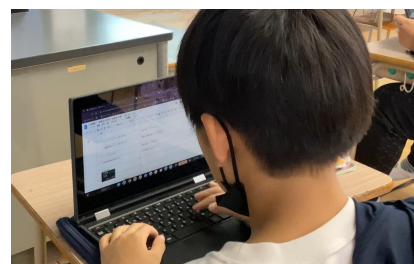


図1 学習のすすめに入力

(2) 手立て2について

手立て2については、単元の追究する過程において自動車工業の工夫や努力を調べたり、学習したことや未来の自動車について考えたことなどをGoogleスライドにまとめたりする際に自己決定学習を取り入れた。学習計画を参考に、学習形態や学習内容、まとめ方などを自分で決めて取り組むことで、自ら学びを進める力を高めることにつながったと考えられる。

学習形態は、個人やペア、グループなど本人の意思を尊重して多様な形態で取り組んでいた。自由に席を離れて他のペアと交流する児童（図2）や必要な活動内容を各自で判断し、隣の空き教室で次時の発表練習する児童もいた。学習内容については、教科書中心であったが、調べ終わると自動車の歴史や安全技術など教科書に記載がない事項や記載があってもさらに詳しく調べるなど、各自が判断し学習を進めていた。学習のまとめ方として、①日本車が高いシェアを誇る理由をまとめる②児童から出た疑問を調べる③画像生成AIを使用して、未来の自動車や環境や福祉に配慮した



図2 他のペアと交流する児童

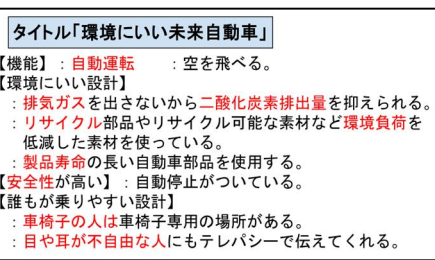


図3 未来の自動車

自動車を考えてまとめる④工場見学した小倉クラッチについてまとめるなど、複数の選択肢を用意

した。興味・関心などに合わせて各自が判断して取り組む様子が見られた。（前ページ図3）

(3) 考察

手立て1の「学びを見通し、蓄積する『学習のすすめ』の活用」では、つかむ過程において、単元の導入で作成した学習問題や学習計画、毎時間作成しためあてを「学習のすすめ」に入力していくことで見通しをもつことができた。学習後の児童の振り返りに「一つのシートにまとまっているから、学習問題や今日やるべきことが分かりやすい。」との記述があった。学習問題を常に目にすることができるので課題に立ち返ることが容易であり、学習計画も見やすいので毎時間のめあてを立てる際にも参考にすることができたと考えられる。追究する過程においては、「学習のすすめ」の学習計画を元に自己決定学習を進めていった。調べる内容や参考サイト、まとめ方の例なども記載してあったので、参考にしながら学習を進めていた。まとめる過程では、学んだことや疑問に思ったことなどのまとめや振り返りを、データとして残すことで学びを蓄積することができた。前時の振り返りが次時の導入で参考になったり、疑問に思ったことを次時やまとめ学習で調べたりする児童もいて、その後の学習に生かすことができた。

手立て2の「自ら学びを進める自己決定学習」では、振り返りを見ると、自己決定学習に対する評判はよく、自分のペースで学習を進めることができることや、友達と協力しながら進めることができる点などを好意的に捉えていた。本時の自己決定学習の場面では、必要に応じて友達と協力して教え合う様子（図4）や各自で判断して隣の空き教室に移動して発表練習に取り組む様子も見られた。児童が作成したGoogleスライドやまとめのワークシートを見ると、これまでの単元と比較して詳しく調べたりまとめたりすることができていた。

これらの様子から、自己決定学習を進めることで興味・関心を高めて主体的に取り組んだり、各自で判断して行動したりすることができると考えられる。研究主題である自ら学びに向かう児童の育成に有効であると考えられる。



図4 児童同士が教え合う場面

IV 研究のまとめ

1 成果

1 単位時間だけでなく、単元を通して「学習のすすめ」を活用したことで、課題を意識したり学習の見通しをもったりすることができた。まとめや振り返りをデータとして残していくことで、学びを蓄積し、次時以降の学習の場面に生かすことができた。

また、自己決定学習を取り入れたことで学習活動を自分で決め、一人一人が主体的に取り組み、必要な活動を自分で判断して取り組むことができた。授業の様子や作成した成果物、振り返りの記述等からも、社会科に対する興味・関心を高めることができたと考える。

「学習のすすめ」の取組を含めて、様々な学習活動を自己決定し、自らの学びを振り返り、次の学びに生かすことで、児童の自ら学びに向かう力の向上を図ることができた。

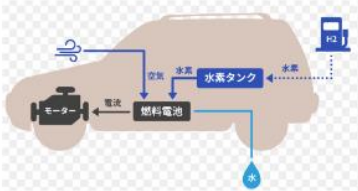

2 課題

自己決定学習では各自で判断して取り組むため、児童によってまとめ方や取り組む分量などに差ができてしまった。特に追究する過程において、どこまでどのようにまとめるとよいかなど目標を明確にすると、児童が自分で決めて動きやすくなると感じた。

V 資料

(1) 児童が自己決定学習で調べたりまとめたりしたGoogleスライド

4. 人々の願いに合わせた自動車開発 (P.20~21)

●自動車開発は、人々の願いや（社会）の動きに合わせて開発している。
⇒自動車開発の中で気になるものを選んで、調べよう。

【○○にやさしい自動車】

- ・燃料電池自動車 水素と酸素から電気を作り、水だけを排出するため、環境に優しい。
- ・様々な人に優しい自動車 高齢者や体の不自由な人の生活を支える自動車。
- ・自動運転技術 自動車自体が走る、曲がる、止まるを操作し、周囲の危険を避けながら走行する技術開発が進められている。
- ・安全性の高い自動車 万が一衝突してしまったときのために乗っている人の安全を守るシートベルトやエアバックがついている。

(2) 児童が毎時間、めあてや振り返りを入力した「学習のすすめ」

めあてとふり振り返り（記入はタブレットでもノートでも、どちらでもよい）		
時間	めあて	ふり振り返り
1	学習問題を作って 自動車のことをたくさん知る。	トヨタ社は世界一のシェアをめている。
2	ミニレッスンをして 自動車工業のことをおおまかに知る。	ミニレッスンを通して 自動車工業のことを詳しく知れた。
3	ミニレッスンやスライドをしてトヨタ社のことを知る。	トヨタのことをたくさん知れて嬉しかった。
4	自動車の部品を作る工場を調べる。	車にはたくさんの部品を使う。災害などが起きたときに生産が止まらないように部品を余分に注文しているということがわかった。
5	画像生成AIを使ってオリジナルの未来自動車を作る。	オリジナルの車が作れて勉強になった。
6	自動車づくりに関わる人々の工夫や努力がたまっていると思ったところを書いて発表する。	自動車づくりに関わる人々は自分のためではなくみんなの笑顔や幸せのために自動車を作っていることがわかった。
7	スライドを完成させて、発表準備をする。画像生成AIを作って未来の自動車を作る。	スライドが完成してトヨタ社のいろいろなことがわかった。画像生成AIでいろいろな自動車を作れるのがすごいと思った。

本報告書に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。

各社の商標又は登録商標

Google スライド、Google Classroomは、Google LLCの商標又は登録商標です。

オクリンク+はベネッセコーポレーションの商標 又は登録商標です。

なお、本文中には ™ マーク、® マークは明記していません。